

第1部 日本	
第1章 天皇と政治 ……………	加藤 雅信 2
はじめに	2
第1節 昭和天皇の言葉からみた天皇と政治	3
第2節 例外的な政治関与	4
第3節 天皇の受動的な間接統治	5
第4節 天皇の沖縄占領提案・終戦直後の天皇の政治活動	7
おわりに	11
第2章 国連と憲法の平和主義 ……………	森 英樹 14
第1節 国連生誕の光と影	14
(1) ふたつの The United Nations	14
(2) 国連結成の政治力学	15
第2節 「国連による平和」の光と影	16
(1) 「国連による平和」におけるP5システム	16
(2) 「国連による平和」の理念と日本国憲法	17
(3) 東西冷戦期における国連安保理の機能麻痺	18
第3節 集団的安全保障と集団的自衛権	19
(1) 国連の集団的安全保障	19
(2) 国連と集団的自衛権	20
第4節 変容する国連と日本国憲法	21
(1) 憲法の平和主義と集団安全保障	21
(2) 国連の変容と平和維持活動	22
(3) PKO協力法, 変容する国連, そして憲法	23
第3章 政治改革と政界再編 ……………	後 房雄 25
はじめに	25
第1節 なぜ政治改革が中心問題となったのか	26
(1) 制度問題の優先的重要性	26
(2) 日本型政治システムの問題点	27
(3) 保守勢力内改革派の台頭	29
第2節 選挙制度改革の意義と効果	32
第3節 政界再編第二幕の見通し	34

第4章 選挙分析からみた日本の政治	小野 耕二	37
はじめに		37
第1節 「55年体制」とは		37
(1) 55年体制の時期区分		37
(2) 55年体制期の選挙動向		38
(3) 55年体制期の概略		41
第2節 55年体制からの移行期		42
(1) 55年からの移行期における選挙動向		43
(2) 55年からの移行期の概略		45
おわりに		46
第5章 日本の裁判制度		47
第1節 日本の刑事裁判	大澤 裕	47
はじめに		47
(1) 効率の良い刑事手続		47
(2) 「絶望的」な刑事手続		50
(3) 問題の構造		52
(4) 刑事手続の反省		54
おわりに		55
第2節 日本の民事裁判——比較のなかの民事司法	貝瀬 幸雄	56
はじめに		57
(1) 民事裁判の現状と改善策		57
(2) 民事訴訟法改正問題		62
おわりに		64
第2部 日本をめぐる国際社会		
第6章 冷戦終結後の国際秩序	佐々木 雄太	72
はじめに		72
第1節 冷戦終結		72
(1) 冷戦の世界と覇権主義		72
(2) 冷戦後の地域紛争		74
第2節 新しい秩序へ		76
(1) 武力と「人道」のジレンマ		76
(2) ポスト冷戦の「地経学」		78
おわりに		80
第7章 社会主義体制の崩壊と法改革	杉浦 一孝	82
第1節 社会主義体制の崩壊とその原因		82
第2節 ペレストロイカと法改革		84
(1) ペレストロイカ初期(1985年春→1986年)		84
(2) ペレストロイカ中期(1987年→1989年夏)		85
(3) ペレストロイカ末期(1989年秋→1991年夏)		86

- 第3節 ポスト・ペレストロイカと新ロシア連邦憲法の制定 88
 (1) 八月政変とペレストロイカの終焉 88 (2) あらたな権
 力闘争と新ロシア連邦憲法 90

第8章 ヨーロッパ統合と地域——ドイツの立場を中心に
北住 炯一 93

はじめに 93

- 第1節 ヨーロッパにおける「地域」の復権 93
 第2節 ドイツの連邦制と地域=州 95
 第3節 「諸地域のヨーロッパ」とドイツ 96
 第4節 マーストリヒト条約と地域 98

第9章 アジアと日本安田 信之 102

はじめに 102

- 第1節 日本はアジアか? 103
 第2節 アジアは一つか? 104
 第3節 アジアとヨーロッパ 106
 第4節 急速なアジアの経済発展 108
 第5節 21世紀に向けてのアジアと日本 109
 おわりに 111

第10章 日本の海外援助木村 宏恒 113

- 第1節 戦後日本の援助政策の展開 113
 第2節 日本の政府開発援助の特徴 115
 第3節 開発援助の今後のあり方を求めて 119

第11章 ガットと日本渡邊 頼純 122

はじめに 122

- 第1節 そもそもガットとは何か 122
 (1) 条約としてのガット 122 (2) 交渉のフォーラムとし
 てのガット 126 (3) 組織としてのガット 128
 第2節 日本のガット加盟 129
 (1) 対日ガット35条援用 129 (2) 輸出「自主」規制 130
 第3節 日本とガット——今後の展望 132

第3部 日本の社会

第12章 国家・企業・家族……………浜田 道代 138

—— 人間組織の構成原理と現代における法の役割
について

はじめに 138

第1節 法の役割 139

(1) 法の第1番目の役割 —— 社会秩序維持と社会構成員の生命・安全の保障 140 (2) 法の第2番目の役割 —— 取引関係の秩序の形成・維持の保障 141 (3) 法の第3番目の役割 —— 組織関係の秩序の形成・維持の保障 142

第2節 近代組織の構成原理と優越性 143

(1) 近代組織の構成原理 143 (2) 株式会社制度と議会制民主主義による立憲国家の発展の歴史 144 (3) 近代組織の優越性の理由 146

第3節 近代法と近代組織の浸透の、現代の女性にとっての意義 147

(1) 家族の変容の一段階 —— 「男は仕事、女は家庭」 147 (2) 「女も仕事、男も家庭」への動き 149 (3) 国家・企業・家族の発展の因果関係 150 (4) 未来への楽観的展望 155

第13章 現代の都市問題と法……………戒能 通厚 157

第1節 都市の歴史を考える 157

第2節 わが国の都市計画の特異性 160

第3節 Q & A: 「都市法」の創造と確立をもとめて 162

第14章 まちづくりの法律問題 ……………市橋 克哉 169

はじめに 169

第1節 まちづくりに関する国の法制とその問題点 170

(1) 国は、まちづくりを総合的に管理する制度を整えているか 170 (2) 国は、まちづくりの「マスタープラン」を持っているか 171 (3) 国が定める「詳細計画」は、まちづくりを積極的に方向づけるものになっているか 173

第2節 市町村による独自のまちづくりの取り組みとその問題点 174

(1) 要綱によるまちづくりの混乱への対応 175 (2) 条例によるまちづくり 176

おわりに	179
第15章 暴力団と民事介入暴力 ……………田中 清隆	181
はじめに	181
第1節 暴力団の実態	181
(1) 組織の実態	181
(2) 暴力団の沿革	182
(3) 暴力団の資金源	186
第2節 民事介入暴力の実態	187
(1) 民事介入暴力とは	187
(2) 民事介入暴力の手口	188
第3節 民事介入暴力対策	189
(1) 弱みを作らない	189
(2) 弱みを隠さない	189
(3) 「すれすれ行為」対策	190
(4) 暴対法による対応	191
おわりに	191
第16章 外国人住民と日本社会 ……………狩浦 正義	192
——外国人労働者とその家族の視点から	
はじめに	192
第1節 外国人労働者の諸相と諸問題	194
(1) 改正入管法と外国人労働者	194
第2節 外国人労働者とその家族の人権	199
(1) 人権の視点を欠く法改正	199
(2) 優先されるべき生存権	200
第3節 外国籍住民と地域社会	200
(1) 住民である外国人労働者とその家族	200
(2) 自治体と外国人住民	201
おわりに	201
第17章 セクシュアル・ハラスメントと法 ……………石田 眞	204
はじめに —— “言葉” になったセクシュアル・ハラスメント	204
第1節 社会問題となった「セクシュアル・ハラスメント」	205
第2節 雇用におけるセクシュアル・ハラスメント	208
第3節 雇用におけるセクシュアル・ハラスメントと法	209
(1) アメリカの経験	209
(2) 日本の場合	211
おわりに —— 今後の課題	213

第 18 章	現代の家族	水野 紀子	215
第 1 節	家族のイメージ		215
第 2 節	「家」意識の成立		217
第 3 節	高齢者問題		220
第 4 節	現代の育児問題		224

